

小は大をかねる～小さな頑張りが大きなパワーをもたらす～

:学生・齊藤舞

“たった1枚の紙で何千人もの笑顔を生み出す”

ニュースレターという物を介して、カンボジアの子どもたちだけでなく、私たちまでも笑顔になれる、そんなボランティアでした。



私たちの目の前にあるのはただの紙でした。私がこの日したことといえば、「折る、書く、貼る。」たったこれだけでした。ほとんど何もしていないように聞こえるかもしれませんが、でもそれはとんでもない勘違いです。この小さな「単純作業」の積み重ねこそが大きな力につながっていくのです。このニュースレターを私たちが発送し、これを受け

取った人達が支援してくれます。その支援金で教科書を購入し、最終的にカンボジアの子どもたちに届けます。この「単純作業」がいかに偉大なことかわかります。ボランティアにおいて特別な能力や専門的な知識なんていりません。もし、日本人が1人1個のゴミを拾ったとすれば約1億2,000万個のゴミが街から消えます。そう考えると、誰でも世の中を変えられる気がします。

また、参加者の中には「暇つぶしで来ました。」という方がいました。私は感心しました。ボランティアという形で、自分の自由にできる時間を人の為に費やせるというのは、なんて素敵ことなんだと思いました。きっかけなんて何でもいい、とにかく動き出すことが大事なんだ、と感じました。この日韓アジア基金は「日韓の若者が協働し、アジアの恵まれない人達を支援する中で互いを知り、歴史の壁を越えたい」という目的をもって設立されたそうです。カンボジアへの教科書支援という共通の目的をもって一緒に歩み、その中で日韓がお互いを理解していけたら一石二鳥だと思いました。日頃ニュースを見ていると、日本と韓国は対立している、と感じることが多いです。せっかく同じ地球に生まれたというのに、仲が悪いだなんてなんだかもったいないです。いつか本当に隔たりのない関係が築けたらいいな、と思います。

初めてのボランティアを通じて、『人々のつながり』について深く考えさせられました。

